SPANCRETE CORPORATION

Investors' Guide IR 2009

会社情報



茨城県信用組合ローンセンター クレオパトラ (外壁)

株式会社 スパンクリート コーポレーション

社 本

〒113-0033 東京都文京区本郷 4-9-25

Tel: 03-5689-6311 Fax: 03-5689-6321

www.spancretecorp.com JASDAQ ⟨JASDAQ·⊐−ド 5277⟩

● みなさまとのコミュニケーションを大切に ●

インベスターズガイドについて ---

インベスターズガイドは、株主ならびに投資家のみなさまに、当社の財務内容を正確にお伝えするとともに、みなさまとのコミュニケーションの手段として発行を続けてまいりました。毎年約100通のアンケートの回答をいただき、ご意見の一部を編集に反映させていただいております。今後ともみなさまからのご意見をいただきたいと存じますので、同封のアンケート用ハガキにてお寄せいただければ幸いです。

■ 2009年3月期について

2009年3月期は、売上高43億5千万円(前年同期比2.2%減)、営業利益2億6百万円(同3.2%減)と前年比僅かながら減収減益となりました。

主力のスパンクリート事業は、景気減速による建設需要減の影響で当社の主力製品であるマンション床材が大きく落ち込む一方で、北陸新幹線の防音壁需要が下支えとなり、年度後半には九州新幹線の防音壁の特需等もあって生産数量・売上数量ともに修正計画通りの数量を確保することができました。利益面ではPC鋼線を始めとする原材料費の急激な高騰を吸収し切れなかったものの、第2次中期経営計画の主要販売施策「流通倉庫、工場、防音壁等の相対的に粗利益率の良好な壁板拡販への注力」が進展、加えて関門トンネルの改修工事に新製品トンネル天井パネルが採用されたこと等の明るい材料があったことから、最終的には前期は下回ったものの営業利益7千8百万円(同9.7%減)を計上いたしました。

また、不動産事業は賃貸ビル3棟が夏場以降100%稼動(満室)を維持し、大規模改修の償却負担増を吸収して安定収益を計上しており、営業利益1億3千8百万円(同1.2%増)と僅かながらも増益となりました。

一方、営業外収益は米国発の金融危機に端を発した株式市場の低迷等により余資の運用益が減少したことから、経常利益は2億7千万円(同9.9%減)と減益で、更に投資有価証券の強制減損処理等の特別損失5億3百万円を計上したことから、当期純損益は2億2千5百万円の損失計上(前年同期1億2千8百万円の当期純利益)となりました。

■ 2010年3月期の業績予想

2010年3月期は、景気の先行きに対する不透明感が払拭されない中、建設業界を取り巻く環境は厳しさを増しており、その影響下にある当社スパンクリート事業はかなりの苦戦が見込まれます。同事業の受注数量の減少が避けられない状況下、構えの調整等のきめ細かな合理化努力を講じても同事業の収益確保には相当の努力が必要となります。従って、不動産事業の賃貸ビル3棟の安定収益は見込まれるものの、スパンクリート事業の影響が大きく、両事業合わせた業績予想は、売上高31億円、営業利益8千5百万円、経常利益1億5百万円、当期純利益5千万円と減収減益を見込んでおります。

■ 対処すべき課題

極めて厳しい経営環境下、当社が取り組まなければならない喫緊の課題は、「減収(数量減)でも利益の出る体制の構築」であります。今回の難局は、当社が10年前に経験したバブル崩壊後の建設不況に酷似しておりますが、原材料価格の高止まりや需要の減少速度等、前回以上の危機となるリスクも孕んでいるものと認識しております。

前回の不況時を乗り切った経営改善活動の実績も踏まえ、今次難局を乗り切る具体的な方策は次の通りと考えております。一つ目は、会社の構えの調整の円滑化であります。即ち受注数量は30~40%は落ちるとみておりますが、出荷のタイミングにより生産調整を行う必要があり、この構えを迅速かつきめ細かく調整することが会社のトータルコストを引き下げるうえで極めて重要なポイントになり、工場の集約、一時休止を弾力的に実施します。二つ目は、製造コストの引き下げであります。NPS改善活動を活用して最適生産効率を追及し、且つ品質向上を図ります。更に相当の苦戦が予想されますが原材料価格の値下げを強力に推進していく必要があると考えております。三つ目としては、本社費のスリム化であります。構えの調整に合わせて本社人員の圧縮(含む工場への配置転換)と聖域のない経費削減を実施してまいります。四つ目は、営業面で営業粗利益率の向上に努力することであり、付加価値の高い新製品と相対的に利益率の高い壁板の拡販に注力してまいります。

以上の方策を総動員しても今次難局下での収益確保には相当の努力を要しハードルが高いものと認識しておりますが、全社挙げて取り組んでまいる覚悟でおります。

■ 内部統制報告について

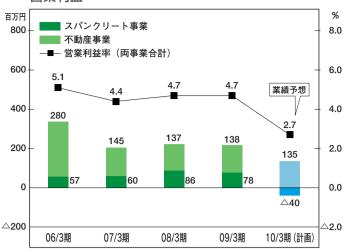
当社は、金融商品取引法に基づく内部統制システムの体制構築のための準備を2006年12月にスタートさせ、 以降2008年4月の本番開始に向け体制を整備するとともに不備事項の洗い出しと改善を繰り返し実施して参りました。内部統制報告に係る評価対象の事業所は、本社、宇都宮工場及び岩瀬工場とし、業務プロセスは、事業目的に大きく関わる勘定科目の売上高、売掛金、受取手形及び棚卸資産としました。先般2009年3月末日時点において内部統制の整備及び運用状況の有効性を評価し、「当社の財務報告に係る内部統制は有効である」旨の報告をしております。

売上高

百万円 ■スパンクリート事業 8,000 不動産事業 7,000 6,298 6,000 5.000 4,450 4,375 4,350 業績予想 4,000 3,100 3.000 2,000 1.000 0 06/3期 07/3期 08/3期 09/3期 10/3期(計画)

営業利益

(単位・百万円)



損益計算書要旨

預益計昇書要旨 (単位: 百万円						(単位:百万円)
	07/3期	(%)	08/3期	(%)	09/3期	(%)
売 上 高	4,375	100.0	4,450	100.0	4,350	100.0
売上原価	3,606	82.4	3,655	82.1	3,571	82.1
販売費および一般管理費	573	13.1	581	13.1	572	13.1
営業利益	195	4.5	213	4.8	206	4.8
営業外損益	190	4.3	86	1.9	63	1.4
経 常 利 益	386	8.8	299	6.7	270	6.2
特別損益	△45	△1.0	△55	△1.2	△503	△11.6
税引(税金等調整)前当期 純損益	340	7.8	244	5.5	△233	△5.4
法人税、住民税 及び事業税	57	1.3	131	2.9	12	0.3
法人税等調整額	127	2.9	△16	△0.3	△20	△0.5
当期純損益	154	3.6	128	2.9	△225	△5.2

767 00.0 スパンクリート事業 4,089百万円 不動産事業 261百万円

> スパンクリート事業 78百万円 不動産部門事業 138百万円 共通費用 △10百万円

投資有価証券の評価損 395百万円

キャッシュ・フロー計算書

			(単位:白万円)
	07/3期	08/3期	09/3期
営業活動によるキャッシュ・フロー			
税引(税金等調整)前当期純損益 減価償却費 運転資金の増減額 法人税等の支払額 営業活動から得たキャッシュ	340 165 △40 △163 302	244 173 591 △49 959	△233 172 210 △104 45
投資活動によるキャッシュ・フロー			
有価証券の取得による支出 有価証券の売却による収入 有形固定資産の取得による支出 その他投資等の増減額 投資活動から得たキャッシュ	△1,228 747 △209 81 △609	△953 838 △117 85 △147	△791 735 △49 15 △90
財務活動によるキャッシュ・フロー			
短期借入金の返済による支出 長期借入金の返済による支出 自己株式の取得による支出 自己株式の処分による収入 株式の発行(ストックオプション)による収入 配当金の支払額 その他 財務活動から得たキャッシュ 現金及び現金同等物に係る換算差額 現金及び現金同等物の増減額 現金及び現金同等物の期首残高 資金の範囲の変更による現金及び現金同等物の増減額			△100 △100 △40 — 0 △63 — △304 △6 △355 2,332 △102
現金及び現金同等物の期末残高	1,767	2,332	1,873

借入金の返済、自己株式の取得及び 配当金の支払により減少

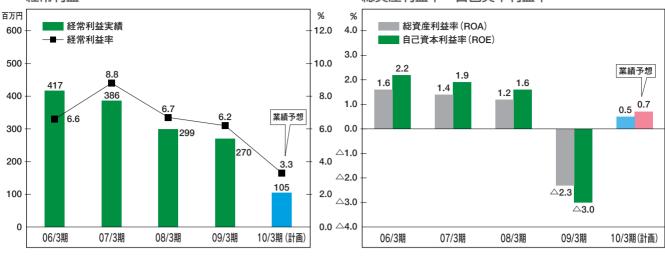
財務諸表コメント・

[08/3期] スパンクリート事業の上期は数量増による採算性の向上、粗利益率の改善等により業績は好転しました。下期は改正建築基準法の確認審査遅延の影響で数量が計画を下回ったものの、マイナスの影響を最小限にとどめ増収増益を確保することができました。

[09/3期] 不況による建設需要減、特にマンション向床材減少の影響が大きく、北陸、九州新幹線防音壁やトンネル天井板等の下支えはあったものの前年比僅かながら減収減益となっております。また株式市場の低迷により投資有価証券強制減損処理395百万円を特別損失に計上しております。

経常利益

総資産利益率・自己資本利益率



貸供対昭丰亜ビ/※☆の部

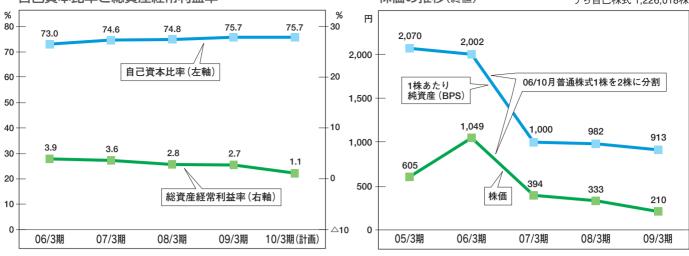
貸借対照表要旨〈資産の部〉 (単位: 百万)				
	07/3期	08/3期	09/3期	(%)
資 産 の 部				
流動資産	3,727	3,983	3,860	39.7
現金及び預金	1,342	1,917	1,587	
受取手形及び売掛金	1,583	1,157	1,309	
完成工事未収入金	87	39	5	
有 価 証 券	424	545	588	
たな卸資産	218	262	287	
繰 延 税 金 資 産	36	56	72	
そ の 他	33	3	8	
固定資産	7,242	6,500	5,868	60.3
有形固定資産	4,769	4,669	4,560	46.9
建物及び構築物	1,190	1,206	1,157	
機械装置及び運搬具	396	327	287	
工具、器具及び備品	18	13	13	
土 地	3,163	3,114	3,099	
建設仮勘定	1	6	1	
無形固定資産	32	23	12	0.1
投資その他の資産	2,440	1,808	1,296	13.3
投資有価証券	2,186	1,543	Point ① 1,057	
長期貸付金	28	28	21	
繰 延 税 金 資 産	_	15	_	
そ の 他	241	236	225	
貸 倒 引 当 金	△16	△17	△8	
資 産 合 計	10,969	10,483	9,728	100.0

Point 1	投資有価証券	売却・	時価の	下落等:	で減少
---------	--------	-----	-----	------	-----

貸借対照表要旨〈負債・純資産の部〉					
	07/3期	08/3期	09/3期	(%)	
負 債 の 部					
流動負債	1,496	1,671	1,547	15.9	
買 掛 金	118	84	93		
工事未払金	123	137	161		
短 期 借 入 金	900	900	800		
一年内返済予定の長期借入金	100	100	75		
未払法人税等	32	107	12		
そ の 他	222	341	404		
固定負債	1,285	972	816	8.4	
長 期 借 入 金	175	75	_		
長期未払金	100	100	12		
再評価に係る繰延税金負債	693	693	693		
そ の 他	316	103	109		
負 債 合 計	2,782	2,644	2,363	24.3	
純 資 産 の 部					
株主資本					
資 本 金	3,295	3,295	3,295	33.9	
資本剰余金	3,710	3,710	3,710	38.1	
利益剰余金	1,310	1,373	Point ② 772	7.9	
自 己 株 式	△194	△277	Point ③ △317	△3.3	
評価・換算差額等					
その他有価証券評価差額金	299	△28	△173	△1.7	
土地再評価差額金	△234	△234	Point ② 77	0.8	
純 資 産 合 計	8,187	7,839	7,365	75.7	
負債純資産合計	10,969	10,483	9,728	100.0	

Point ② 土地再評価差額金の取崩 312百万円

Point ③ 自己株式187千株を期中に取得し、期末残は1,226千株



新製品トピックス

□トンネル天井板「STCパネル」関門トンネルに採用

本州と九州を結ぶ関門トンネルは開通から50年の節目を迎え、天井板を含む大改修がスタートしました。

工事は昨年10月中旬から約2ヶ月間にわたり関門トンネルを全面的に通行止めにして行われ、「スパンクリートSTCパネル」が天井板として全面的に採用になりました。

西日本高速道路株式会社から発注されたこの工事の状況は今年1月に発刊された「日経コンストラクション新年号」に6頁にわたり写真入りで大きく取り上げられ「大型パネルのスパンクリート板が施工のスピードアップに大きな役割を果たした」と報じられました。

昨年はこの他に大阪の「夢咲トンネル」にも採用され、同様に好評で した。

引続き現在も複数のトンネルの引合いをいただいており、今後も積極的に展開する予定です。



関門トンネル内部

夢咲トンネル



関門トンネル



夢咲トンネル内部

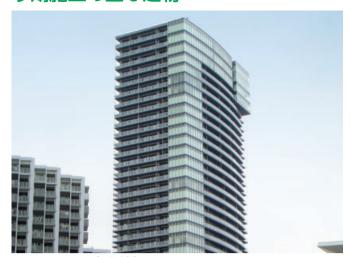
□Mスラブのプラットホームへの展開

駅のプラットホームに可動柵を設置する鉄道会社は徐々に増えてきており、今期は東急電鉄・京成電鉄・相模鉄道への実績ができました。

その後も小田急電鉄・京王電鉄他各社から引合いをいただいており、 比較的順調に採用する会社が増加しております。



今期施工の主な建物



クレッセント川崎TOWER

JR川崎駅前に建設された38階建超高層マンション。 地震に強い免震構造マンションです。



JAいみず野小杉低温倉庫

大型の米倉庫。 スパンクリート板を横貼りに取付け、現場の工程が大幅に 短縮されました。



県立前橋商業高等学校

県立の商業高等学校校舎です。 外壁およびプレキャスト材を一括受注しました。



CHIBA CENTRAL TOWER

43階建千葉市内最高層のマンション。 免震構造マンション・設計は「六本木ヒルズ」等を手掛けた 入江・三宅設計事務所です。



月島倉庫

赤のオブジェが強烈な印象を残す大型の物流倉庫です。 外壁に全面的に採用されました。約13,000㎡



東横イン敦賀駅前

全国展開のホテルチェーン。 外壁にワイドパネルが全面的に採用されました。 遮音性に優れ、その後も設計採用が続いております。

資料請求、お問い合わせは…

株式会社スパンクリートコーポレーション IR担当 野崎京子 〒113-0033 東京都文京区本郷 4-9-25 電話 03(5689)6311 制作協力:

株式会社プロネクサス 営業 5 グループ 大木整

〒105-0022 東京都港区海岸 1-2-20 汐留ビルディング 電話 03(5777)3011

今期施工の主な防音壁

今期は北陸新幹線(長野〜金沢間)、東北新幹線(八戸〜新青森間)の他に九州新幹線(新八代〜博多間)と成田新高速鉄道 (日暮里〜成田国際空港)の受注があり、防音壁の総出荷量は約80,000㎡(前期比43%増)となりました。

一口に防音壁といっても路線によって求められるニーズは多種多様で、防音効果は言うに及ばず積雪対策、塩害対策、景観に対する配慮(デザイン性)等様々であり、フレキシブルな対応が求められます。



東北新幹線 膝森付近



北陸新幹線 金沢駅付近

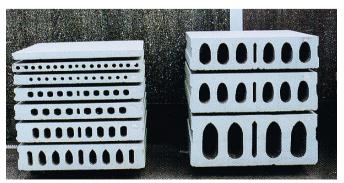


九州新幹線 緑川付近



成田新高速鉄道 印旛沼付近

スパンクリート





スパンクリート標準製品。PC鋼線の入った穴あきPC板。床材として、また壁材として建築から土木まで多目的に使用可能な材料です。厚さ7cmから35cmまで17種類。高耐力、ロングスパンが売り物です。

会社の概要

1.会 社 名 株式会社スパンクリートコーポレーション

(英文名) SPANCRETE CORPORATION 立 1963年(昭和38年)3月23日 2. 設

3. 資本金 32億9.589万円(2009年3月31日現在)

4. 役 員 代表取締役社長 原 田

専務取締役 東 村 友 (生産・総務・企画管掌)

常務取締役齊 藤 建 次 (営業・工務・技術管掌)

常務取締役

村 山 典 (業務・設計・企画管堂)

彸 飯牟礼 (営業部長)

ĦΖ 締 役 坪 井 正 規

締 役 山 水 治

役 分 藤 潔 締

** 常勤監査役 大 谷 光 献 査 役 阿 部 裕 =

查 役 清 水 雄

> (2009年6月24日現在) *は社外取締役です

**は計外監査役です

5. 本 社 東京都文京区本郷4-9-25

〒113-0033 TEL(03)5689-6311

仙台営業所 宮城県仙台市青葉区一番町2-11-1 MS一番町ハイツ 301 〒980-0811 TEL(022)227-3432

宇都宮工場 栃木県宇都宮市平出工業団地8-5

〒321-0905 TEL (028) 661-2211

岩瀬工場 茨城県桜川市岩瀬2161-1

∓309-1211 TEL (0296) 75-5711

6. 取引銀行 みずほ銀行(丸の内中央支店)

三菱東京UFJ銀行(神田駅前支店)

りそな銀行(上野支店) 三菱UFJ信託銀行(本店)

主要取引先

設計事務所 三菱地所(株)・(株)日本設計・(株)日建設計・(株)日建ハウジン

グシステム・東雷設計(株)・(株)松田平田設計・(株)柱設計・

(株)創元設計・(株)横河建築設計事務所・(株)ジェイアール

東日本建築設計事務所, 独立行政法人鉄道建設, 運輸施設 整備支援機構・(株)久米設計・(株)石本建築事務所 他

商 社 三菱商事(株):三菱商事建材(株):三井住商建材(株) 他

建設会社 鹿島建設(株)·大成建設(株)·清水建設(株)·(株)竹中工務

店·(株)大林組·前田建設工業(株)·戸田建設(株)·西松建

設(株)・三井住友建設(株)・鉄建建設(株) 他



宇都宮工場

大株主

1 三菱商事(株) 2 日本スパンクリート機械(株)

3 鈴木金属工業(株) 4 村山 好弘

5 ソシエテジェネラルエヌアールエイエヌオーディティティ

会社の沿革

1963年 3月 スパンクリート製造株式会社(旧社名)設立

資本金1,000万円 代表取締役社長 村山好弘就任

4月 資本金4,000万円に増資

7月 資本金1億円に増資

1964年 2月 宇都宮第1工場屋外生産設備完備 試作開始 営業開始

7月 資本金2億円に増資

1970年 10月 宇都宮第2工場建設完了 生産開始

1971年 4月 日本スパンクリート協会を設立 会長に当社代表取締役

社長村山好弘就任

1975年 10月 空胴プレストレストコンクリートパネル工業協会(穴あ

きPC板工業協会)設立

会長に当社代表取締役社長 村山好弘就任

1976年 5月 JISA6511(空胴プレストレストコンクリートパネル)

制定される

1979年 12月 資本金2億3,000万円に増資

1982年 12月 宇都宮工場 JIS 指定工場となる

1984年 3月 スパンクリート合成床工法 建設大臣認定を取得

7月 宇都宮第3工場生産設備完了 生産開始

1988年 11月 資本金2億9,000万円に増資

1989年 5月 スパンクリート合成床工法 特許を取得

10月 資本金4億2,434万円に増資

11月 資本金14億9.759万円に増資

11月 岩瀬工場建設完了 生産開始

1990年 2月 スパンクリート合成床工法 発明大賞受賞

1991年 2月 社名をスパンクリート製造株式会社から株式会社スパン

クリートコーポレーションに変更

4月 スパンクリート合成床工法 科学技術庁長官賞受賞

9月 株式を公開(店頭) 資本金32億3,459万円に増資

1992年 4月 当社代表取締役社長 村山好弘 黄綬褒賞受賞(スパン

クリート合成床の発明考案など業務精励)

5日 株式を1対14に分割

1993年 5月 岩瀬工場 JIS指定工場となる

1996年 7月 本社を文京区本郷4丁目に移転

2003年 8月 Jスラブ (組立床工法) (財) 日本建築センターの構造評

定を取得

2004年 3月 明星プレテック株式会社(4月プレテック株式会社に社

名変更) の株式を100%取得

2005年 5月 宇都宮工場·岩瀬工場·設計部 ISO 9001認証取得

6月 原田穣代表取締役社長就任

11日 1単元の株式数を1,000株から100株に変更

2006年 3月 プレテック株式会社解散

10月 普通株式1株を2株に分割



岩瀬工場